



戦争の語り部 どうつなく

22年度の第3回学習支援の集いが10月26日、シルバーカレッジで開かれ登録者30人が参加しました。加藤委員長・川上副委員長が「1学期は55校から支援要請があり、対応できたのは30校（61%）だった」と活動の現状を報告した後、2人から体験発表がありました。阿部公晴さん（国14）は東灘区の小学校でフィリピン人学童の通訳（英語）をしており、英語学習にも積極的に協力していることを話しました。長谷川 つや子さん（国16）は垂水区の小学校で、特別支援児童の給食介助をしています。幼時につらい思いをした自身の体験を生かし、今のボランティアをしていることを語りました。

今回は、学習支援者の拡大という従来のテーマのほか、「戦争と平和学習」の“語り部”をどう継続するか、という課題も話し合われました。自治会の老人クラブなど、グループわ以外から講師を頼めないか 現在の活動内容をビデオ教材にして活用できないか——などの意見が出され、今後、具体化することになりました。



●布ぞうり作りに挑戦 環境未来館のエコスクール11月13日のは3R（リデュース・リユース・リサイクル）大作戦。約60人が参加。この日の目玉は、布ぞうり作りです。昔遊びのメンバーの指導で古布を使ってぞうりを編むのですが、子どもたちは車座が苦手。1時間ほどの作業でしたが「腰が痛い。ぎっくりや」と悲鳴をあげていました。＝写真

●子ども応援フェスタ 46人が協力

40回目となる「子ども未来応援フェスタ」が10月29日～30日、神戸勤労会館（中央区）で開催され、チャリティーバザーでは昨年の79万円を上回る81万8950円の売り上げがあり、福祉資金の一助にすること

私のボランティア日記

福祉10期 高木良治

『土とあそぼう』というネーミングで、児童館で、学童保育の子どもたちとプランターを利用して、野菜や、花などを栽培している。KSCグループ学習（こどもあそび塾）の時代から続いている活動。ビニールシートの上でプランターをひっくり返し腐葉土や肥料を入れて土を再生し、苗を植え、種を播く。土の中には季節に応じていろいろな生き物がいる。怖がる子供、捕まえてビニール袋に入れる子供、土を混ぜながらわいわいがやがや。春はイチゴ、夏はミニトマトなどの収穫にっこり。雨の日は作業が出来ない。その時は折り紙やブンブンゴマなどの遊びをする。メンバーはむかしあそび研究会の会員でもある。

11月は前半の時間、神戸シルバー大学院のTさんグループの紙芝居『山となかよし・木となかよし』を見せてもらった。30数名の子供たちが出席し、多いに盛り上がった。本番の『土とあそぼう』はTさんグループにも参加していただき楽しいひと時を過ごした。

とができました。この催しにはグループわも全面的に支援。21日から8日間にわたって46人、延べ120人がバザー提供品の荷分け、値付け、梱包、展示、販売などのお手伝いをしました。主催者の「ひょうご子どもと家庭福祉財団」からは、グループわと協力者46人に丁重な謝意が寄せられました。（福祉部会）

900人を魅了、コーロ演奏会

混声合唱団コーロの第6回定期演奏会が10月20日、神戸文化・中ホールで行われ、のびやかな歌声で満員の聴衆を魅了しました。今回は男声合唱団との合同演奏も実現、多彩なプログラムが組まれました。モーツァルトのミサ曲、「赤とんぼ」、組曲「旅」、ショパンのピアノ曲独奏、男声合唱「Believe」など20曲。圧巻は最後の全員合唱。双方の180人が舞台上に勢ぞろい、「大地讃頌」を高らかに歌いあげると、客席は興奮と感動の渦。拍手喝采が鳴り止みません。聴衆アンケートでは「すばらしい合唱。同年代の私たちの誇りです」「元気をもらい、共感しました」といったコメントが多かったそうです。世話役の桑原浩さんは「男声合唱団とは、創設いらい初めての交流。皆さまに喜んでいただけて嬉しい限りです。次回も合同演奏ができれば」と意欲的でした。